

R6 年度		令和6年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧												(令和5年12月20日作成)	
久米島町															
事業 バ 細	事業名	計画期間		事業概要		R6成果目標（指標）	定 量 ○ ×	R6成果目標（詳細理由）		定量的な成果目標（指標）が 設定できない場合に記載		備考（後年度効果が発現する成果目標）			
		事業始期	事業終期	R6事業内容	R6活動目標（指標）			成果目標設定の根拠・考え方	定量的な成果目標（指標） を設定できない理由	後年度効果が発現する 成果目標（指標）	後年度効果が発現する成果目 標（指標）の根拠・考え方	今後の展開方針	補足説明等		
①	②	③		④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬＝⑧又は⑪		
		年	月	年	月	事業計画書（様式1）の事業概要と一致			⑦が「×」の場合、記載	⑦が「×」の場合、記載	⑦が「×」の場合、記載	⑧⑩を簡略化記載	⑦が○の場合、⑧を簡略化 ⑦が×の場合、⑪を簡略化		
1	① 優良雌牛導入事業	26	4	14	3	肉用子牛の品質及びセリ価格を向上させることで、畜産農家の経営の安定化を図るため、畜産農家に優良繁殖雌牛の貸付を行う団体に、当該牛の導入に係る経費を補助する。	優良繁殖雌牛貸付への支援（補助）：55件（頭）	■導入した優良雌牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合：107%以上	○	■農家の経営安定に向けた子牛の品質及び価格の向上が事業目的であるが、子牛の価値を測るセリ価格等は、他の要因に影響されることが、本事業の成果を検証することが困難である。 そのため、全体的なセリ価格の高騰や低落等、市場の状況に関わらず、優良雌牛から生まれた子牛の価格とそうでない子牛との価格差の割合を一定以上にしたいことにより、優良雌牛の子牛の品質及び価格の向上が確認できると考え左記を設定。 指標については、R4実績を上回る値を設定。 【R4実績】 ・導入した優良雌牛から生まれた子牛の平均価格（A）525,816円 ・そうでない子牛の平均価格（B）492,280円 ・価格差の割合（A/B）106.8%≒107%	—	—	—	【今後のスケジュール】 優良繁殖雌牛の導入を促進し、肉用子牛の産地として定着させていく。	【R6成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。

2	①	久米島袖販売促進事業	24	6	14	3	久米島袖及び関連商品の売上増加を図るため、久米島袖事業協同組合が実施する久米島袖の新商品開発や販促開拓等の活動を支援（補助）する。	・物産展等への出展 4回 ・呉服店(問屋)へのセールス ・新商品の開発 10点 ・アドバイザー招聘 1人	久米島袖及び関連商品の年間売上高 ■反物売上額 6,500万円以上 ■小物売上額 1,400万円以上	○	■反物売上額 ・コロナ禍も一定の売上を維持できたことから直近5年間の実績平均値とR5見込を比較してそれ以上の値を設定 ・平均値(R1-4):6,336万円 【過去の実績】 H29:6,431万円 H30:6,017万円 R01:6,963万円 R02:5,557万円 コロナ禍 R03:6,245万円 コロナ禍 R04:6,898万円 コロナ禍 R05:6,500万円(見込) ■小物売上額 ・コロナ禍に売上が下落したことから、コロナ禍以前3年間の実績の平均値以上を設定 ・平均値(H29-R1):1,398万円 H29:1,612万円 H30:1,541万円 R01:1,041万円 R02: 692万円 コロナ禍 R03: 768万円 コロナ禍 R04:1,103万円 コロナ禍 R05:1,200万円(見込)	—	—	—	【今後のスケジュール】 県内外の物産展等に出展するなど県外にPRを行い、久米島袖や関連商品の売上増加に持続的な伝統工芸産業の振興を図る。	【R6成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
2	②	久米島特産品販路開拓事業	25	5	14	3	久米島産の特産品の売上の向上を図るため、久米島商工会が行う特産品の販促活動やPR活動へ支援を行う。	・県内外での物産展開催、出展：県外2回、県内4回	■開催・出展した物産展における島特産品の販売額:2,560万円以上	○	■開催・出展した物産展における島特産品の販売額 ・コロナ禍で売上が下落したことから、コロナ禍前(R1年度)の実績を超える値を設定 R01:25,551万円 R02: 6,626万円 コロナ禍 R03:12,508万円 コロナ禍 R04:15,948万円 コロナ禍 R05:16,732万円(見込)	—	—	—	【今後のスケジュール】 島特産品の売上の増加に向けて、県内外で開催される物産展に出展する事業所を支援する。	【R6成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
2	③	ブランディングサポート事業	4	7	7	3	久米島産の特産品を製造・販売する事業者の売上の向上を図るため、特産品等のファッションアップやブランディングを行う機会を設け、事業者の経営の底上げに取り組む久米島商工会の活動を支援（補助）する。	・個別ブランディングサポート研修2回 ・商品開発に向けた試作品の検証1回	■事業継続していく上で効果があったと回答したセミナー参加事業者の割合：80%以上	○	■セミナー参加事業者を対象にアンケートを実施し本事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が事業継続していく上で効果があったと考えられる数値として80%以上を設定。	—	事業完了後（令和7年度）の目標を以下のとおりとする。 ■特産品売上額：12,127千円	特産品売上が基準年と比較して、5%増／年を成果目標として設定。 R1:15,390千円 R2:3,993千円 R3:4,564千円 R4:10,702千円 R5:11,000千円（見込）基準年 R6:11,550千円 R7:12,127千円	【今後のスケジュール】 新商品開発や既存商品のファッションアップやブランディング等の経営方法の底上げにより、後年度、事業者の売り上げ増に繋げていく。	【R5成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が事業継続していく上で効果があったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。 【R7成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。

3	①	観光誘客促進事業	26	4	14	3	久米島の知名度向上、観光客の利便性向上及び観光開散期における観光誘客を図るため、久米島観光の日イベントの開催や、県内外におけるプロモーションの実施、久米島空港内・業務課ターミナル内に観光案内所の開設を行うほか、観光開散期のチャーター便就航によるツアー造成・MICE受入に向けた受入体制の強化を行う。	・観光広報業務（広報活動、島外イベントでのプロモーション活動、島内イベント「久米島観光の日」開催） ・久米島観光案内業務（空港・港） ・ツアー造成に向けた支援業務 ・MICE受入体制強化業務	■久米島に旅行で訪れてみたいと回答した割合：80%以上 ■離島周遊ツアー参加人数：700人 ■MICE年間受入件数：36件	○	■島外のプロモーションに来場者を対象にアンケートを実施し本事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が訪れてみたいと考えられる数値として80%以上を設定。 ■離島周遊ツアー参加人数 R5年度に初めて就航となるため、その就航に係る座席数を参考に設定した。 ■MICE受入件数 ・過去の実績（国内外）のうち最高値を上回る目標値を設定 ・R2:20件 ・R3:13件 ・R4:33件 ・R5:集計中	—	—	—	【今後のスケジュール】 第3次久米島観光振興計画に基づき観光入域数の目標達成に向けて観光振興施策を実施する。	【R6成果目標設定の考え方】 ■アンケート対象者の大多数が訪れてみたいと考えられる数値としてアンケートにより検証する。 ■離島周遊ツアー・MICE受入件数については、過去の実績を勘案して設定した。
3	②	体験交流型観光商品開発販売促進事業	26	4	14	3	観光消費額の増加を図るため、観光開散期における教育旅行等の団体客誘致に向けて、誘致活動や、体験プログラムのガイド育成、販売促進に取り組む。	・教育旅行の誘致活動12回 ・教育旅行誘致13校 ・受入人数1500人以上	観光体験プログラム売上額 ■一般:1,607,174円以上 ■教育旅行:7,245,752円以上	○	H31-R4の平均売上以上を設定 ■一般 ・平均値:1,607,174円 【実績】 ・H31年度:3,464,292円 ・R02年度: 580,100円 ・R03年度: 106,755円 ・R04年度:2,277,550円 ■教育旅行 ・平均値:7,245,752円 【実績】 ・H31年度: 8,834,573円 ・R02年度: 8,226,185円 ・R03年度: 530,750円 ・R04年度:11,391,500円	—	—	—	【今後のスケジュール】 今後も体験プログラムの質の向上や観光関連商品の売上増加を図りつつ、観光開散期の入域数の底上げを行い平準化を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
3	③	久米島観光ブランディング事業	4	7	14	3	観光消費額の増大を図るため、「食」をテーマとした久米島観光のブランド化による久米島の認知度や、食の満足度の向上に向けて、ご当地グルメの県内外でのプロモーション活動や、販売促進、飲食店組合の設立等に取り組む。	・ご当地グルメ新規参加3店舗 ・県内外プロモーション活動2回	一人当たりの観光消費額 ■食事・お酒 13,351円 ■お土産・買い物 8,829円	○	久米島町観光振興基本計画に掲げる一人当たりの観光消費額目標値を設定 ※基準値から年間500円、5年間で2,500円増加させる目標値 ■食事・お酒 ・H31:10,351円 基準 ■お土産・買い物 ・H31:5,829円 基準	—	—	—	【今後のスケジュール】 久米島観光の認知度向上を図り、観光資源を活かした地域ブランドの確立を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 ■久米島町観光振興基本計画に掲げる一人当たりの観光消費額目標値を設定した。
3	④	アウトドアツーリズム展開促進事業	5	4	7	3	新たな旅のスタイルとして注目されているアウトドアツーリズムを、奥武島キャンプ場を拠点に商品化することで、久米島観光における付加価値の創出を通じて新たな観光客層の誘客を図るため、アウトドアツーリズムの商品化や販売促進、民間事業者による奥武島キャンプ場の管理運営に取り組む。	・アウトドアツーリズムの商品化、販売促進 ・民間事業者による奥武島キャンプ場の管理運営	■奥武島キャンプ場の年間利用人数：1,200人	○	■過去5か年の平均及びR5年度の実績見込みを上回る数値を設定。 ・5か年平均：823人 ・R5実績見込み：1,100人 【実績】 H27年度：827人 H28年度：820人 H29年度：724人 H30年度：872人 H31年度：874人	—	—	—	【今後のスケジュール】 アウトドアツーリズムを展開することにより、閑散期の誘客促進及び島内で生産された食材を取り入れたサービスの提供することにより、地域経済の循環につなげていく。	【R6成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
3	⑤	観光地等環境美化強化事業	5	4	14	3	魅力的な観光地としての景観形成を図るため、観光地として利用されている広場等の環境美化を行う。	・環境美化作業の実施：町内45か所	■観光地として魅力的な景観であると回答した観光客の割合：80%以上	○	■観光客を対象にアンケートを実施し本事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が魅力的な景観であると考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 観光客の動向や自然環境の変化に注視しながら、最適な回数、美化活動箇所、内容を検討しながら、継続的に環境美化作業を実施する。	【R6成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が魅力的な景観であったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
3	⑥	スポーツコンベンション推進事業	5	6	14	3	スポーツキャンプ・合宿のより一層の誘致を図るため、野球場及び多目的運動場の土・芝生等をプロ野球チームに求められる水準に整備する。	野球場、多目的運動場の高品質（透水性・硬度・均一性等）な土・芝生の整備・管理 屋内練習場を設置する	■スポーツキャンプ、合宿受入件数：11件	○	■過去最高値を上回る数値を設定。 【実績】 H28年度：9件 H29年度：9件 H30年度：9件 R1年度：8件 R2年度：0件 R3年度：1件 R4年度：8件 R5年度：10件(見込)	—	—	—	【今後のスケジュール】 競技団体からキャンプ・合宿地として選ばれる競技環境を整備し、キャンプ・合宿の継続的な誘致を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。

4	①	英語指導員配置事業	24	8	14	3	小学生の英語への興味・関心及び中学生の学力(英語)の向上を図るため、小・中学校に英語指導員を配置し、外国語授業等の支援を行う。	英語指導員配置数：小学校及び中学校に1名(巡回)	■児童：英語に対する興味・関心が高まったと回答した児童の割合：80%以上 ■生徒：全国学力学習状況調査における平均正答率の全国との差：-3ポイント	○	■児童を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が英語への興味・関心が高まったと考えられる数値として80%以上を設定。 ■生徒 ・過去平均を上回る目標値を設定。 ・平均値：-8.2ポイント 【実績】 ・R01：-7ポイント ・R02～04：実施なし ・R05：-9.4ポイント	—	—	—	【今後のスケジュール】 継続的に英語指導員を配置による支援に取り組むことで、広い視野を持ち、異なる文化を持った人々と共に協働して生きていく資質や能力を育成していく。	【R6成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が英語への興味・関心が高まったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。 ■過去の実績を勘案して設定した。
4	②	基礎学力向上学習支援員配置事業	26	4	14	3	児童の学力向上を図るため、小学校に基礎学力向上学習支援員を小学校に配置し、国語・算数を中心に学習未定着の児童を中心に学習支援を行う。	基礎学力向上学習支援員を配置：小学校3名	■沖縄県達成度調査における平均正答率の県平均との差(県主催の調査)：3.5ポイント以上	○	■過去5年の平均値を上回る数値を設定 ・平均値：3.5ポイント 【実績】 ・H30:0.8ポイント ・R01:4.7ポイント ・R02:6.8ポイント ・R03:5.1ポイント ・R04:0.1ポイント	—	—	—	【今後のスケジュール】 継続的に学習未定着の児童を中心に個々の習熟に応じた学習支援に取り組み、学力を底上げていく。	【R6成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
4	③	特別支援教育支援員配置事業	26	4	14	3	特別な支援を要する児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図るため、特別支援教育支援員を各学校へ配置し、多様なニーズに対応したきめ細やかな支援を行う。	特別支援教育支援員を配置：小学校8名、中学校1名	■特別支援教育支援員の対応に満足していると回答した対象児童生徒の保護者の割合：80%以上	○	■本事業の目的は支援を要する児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善であることから、それを指標化することは難しいことから、代替として、対象児童等を普段から見守る立場である保護者を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が満足していると考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 継続的に困難を抱える児童生徒に対して支援を行い、学校生活や学習上の困難の改善していく。	【R6成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が満足していると考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
4	④	小中アсист相談員事業	4	4	14	3	児童生徒の社会的自立に向けて不登校の児童生徒の登校復帰を促進するため、アсист相談員を小・中学校に配置し、学校とアсист相談員協働で不登校の児童生徒が登校できるよう支援する。	・アсист相談員を配置：小・中学校2名	■登校復帰児童生徒数：2名以上	○	■長期的な心のケアが必要であることから、過去の実績も勘案しつつ、年2名以上の登校復帰を目指す。 【実績】※3月末現在 ・平均値：2名 登校復帰児童生徒数 ・H30:小1名、中1名、計2名 ・R01:小1名、中1名、計2名 ・R02:小0名、中5名、計5名 ・R03:小0名、中0名、計0名 ・R04:小0名、中1名、計1名 参考：不登校児童生徒 ・H30:小2名、中8名、計10名 ・R01:小2名、中9名、計11名 ・R02:小5名、中10名、計15名 ・R03:小0名、中16名、計16名 ・R04:小0名、中17名、計17名	—	—	—	【今後のスケジュール】 いじめの積極的な認知を図り、新規不登校者を抑えながら、不登校児童生徒の登校につなげていく。	【R6成果目標設定の考え方】 ■長期的な心のケアが必要であることから、過去の実績も勘案しながら設定した。
4	⑤	学校ICT活用支援事業	5	4	13	3	ICT活用により分かりやすい授業を実施するため、教職員の効果的なICT活用を支援するICT支援員を配置する。また、児童生徒の1人1台端末の活用に適した机上スペースを確保するためデスク天板拡張備品を整備する。	ICT支援員を配置：町内8小中学校(巡回)1名 デスク天板拡張ツールを整備する	■ICT活用により授業が分かりやすかったと回答した児童・生徒の割合：80%以上	○	■児童・生徒を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が分かりやすかったと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 GIGAスクール構想の推進すること、児童・生徒の情報活用能力を育成していく。	【R6成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が分かりやすかったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。

5	①	地域型就業意識向上支援事業	30	4	14	3	児童生徒に産業や職業の魅力を伝え、就業意識の向上を図るため、児童生徒を対象としたキャリア教育等を実施する。 ・ジョブシャドウイング・わくわくワーク(小) ・職場体験(中) ・インターシップ(高) ・職業人講話(小中高) ・プログラミング授業(中学生) ・グッチョー連携協議会の開催 ・通計調査の実施	■就業に対して理解が深まったと回答した児童生徒の割合：80%以上	○	■児童・生徒を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が分かりやすかったと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 まずは久米島の産業について興味を持たせ、児童生徒自らが学校生活を送る中で、進学・就学をイメージした取り組みができるよう取り組む。	【R6成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が理解が深まったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
5	②	ホームステイ等派遣事業	5	4	14	3	児童・生徒に国際的な視野を持たせるため、次代を担う小・中学生に、海外ホームステイや島内在住外国人との交流を通じた英語の実践や異文化に対する理解を深める機会を提供する。 ・海外ホームステイ派遣の実施：中学生2人 ・島内在住外国人との交流：小学生12人	■国際的な視野が広がったと回答した生徒の割合：80%以上 ■英語に対する学習意欲が向上したと回答した児童の割合：80%以上	○	■児童・生徒を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が国際的な視野が広がった・学習意欲が向上したと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 海外ホームステイ、島内在住外国人との交流を通して語学力向上へ並びに異文化理解を深め、国際社会において主体的に行動できる人材を育成していく。	【R6成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が分かりやすかったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
5	③	久米島現代版組踊推進事業	24	4	14	3	久米島の歴史・文化に対する地域住民等の興味・関心を高め、保存・継承につなげるため、小中高生を中心とした地域の若者連による本町の歴史を題材とした舞台「現代版組踊」の公演等を行う。 ・現代版組踊り公演：2回（島内外） ・各種イベントへの出演：6回	■久米島の歴史・文化に対する興味・関心が高まったと回答した舞台公演来訪者の割合：80%以上	○	■公園来場者を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が興味関心が高まったと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 新たなメンバーの参加を募り、舞台の活動を通して久米島の歴史文化に対する理解を深め、地域住民に発信していく。	【R6成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が興味・関心が高まったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
5	④	文化遺産保存活用事業	24	7	12	3	古くから中国、東南アジア諸国等との交易・交流を通じて形成された沖縄独自の歴史・文化（古文書）を保存・継承するため、古文書の修復、翻刻及び口語訳を行う。 ・古文書修復件数：100件（修復文書610件のうち100件(16.4%)を修復）	■古文書修復件数：100件（修復文書610件のうち100件(16.4%)を修復）	×	計画策定スケジュールに基づき設定。 (スケジュール) R6 古文書の修復 R7 古文書の活用	本事業の成果目標は、修復した古文書の利用に関する目標値を設定すべきであるが、古文書の修復中であり検証が困難なため、本年度の成果目標としては、定性的な指標を設定した。	修復完了後1年目（令和7年度）の成果目標を以下のとおりとする。 ■修復文書速報ロビー展見学者数：6320人以上 ■修復を行った古文書の調査利用件数：53件以上、調査利用人数：5名以上	過去5年間の実績を上回る数値を設定。 ■修復文書速報ロビー展見学者数 ・修復資料は博物館入館者全員の目に触れる場所にコーナーを設け展示することから、博物館年間入館者数を指標として設定。H27は全国規模の特別展の開催により入館者数が大幅増となったため、H27を除くH28～R1の過去4年間の平均を上回る値を設定。新型コロナウイルスの影響により直近3年間の入館者数は激減したため、イレギュラー値とみなし、根拠から除外。 ・過去4年平均 利用件数6319名 【過去の実績】 H27:7265名（全国重要無形文化財秀作展開催） H28:6699名（久米島総展開催） H29:5675名（特別展開催なし） H30:6773名（古文書展開催） R1 :6129名（久米島総展開催） ■調査利用者及び調査利用人数 ・5年平均 利用件数52件、利用者4名 【過去の実績】 H27 利用件数20件、利用者5名 H28 利用件数30件、利用者3名 H29 利用件数30件、利用者2名 H30 利用件数80件、利用者5名 R1 利用件数100件、利用者7名	【今後のスケジュール】 修復した資料を積極的に展示会や研究紀要等において公開するとともに、研究者への調査利用も受け入れ、得られた調査結果の公開を行っている。	【R7成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。

6	①	航空運賃コスト負担軽減事業	30	4	14	3	入城観光客数の増加を図るため、航空事業者が観光客等に対して運賃を割り引いて販売した際の差額分を補填することで、割高な渡航運賃の低減を行い観光客等が訪れやすい環境を整備する。	交流人口を対象とした航空運賃割引の実施	■久米島町への観光入城者数：130,000人以上	○	■久米島町観光振興基本計画に基づき設定した。 【実績】 ・H27年度:103,551人 ・H28年度:111,546人 ・H29年度:109,742人 ・H30年度:103,309人 ・R01年度:100,716人 ・R02年度: 54,783人 ・R03年度: 54,206人 ・R04年度:84,779人 ・R05年度 実施中	—	—	—	【今後のスケジュール】 ・第二次観光振興基本計画の目標値を基準とし、入城観光客数の増加を目指す。	【R6成果目標設定の考え方】 ■久米島町観光振興基本計画に基づき設定した。
6	②	児童・生徒各種大会派遣支援事業	27	4	14	3	島外において開催される各種大会（スポーツ・文化）等への参加を通じて児童生徒に広い視野を持たせるため、同大会等の参加に要する派遣旅費に対する支援を行い、地理的・経済的な理由で左右されず多くの生徒が参加できる環境を整備する。	島外で開催される各種大会・コンクール等に参加する生徒に対し、派遣旅費の支援を行う	■島外において開催される各種大会等に参加して視野が広がったと回答した児童・生徒の割合：80%以上	○	■児童・生徒を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が視野が広がったと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 派遣旅費の補助により多くの生徒に派遣機会をもたらす。	【R6成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が視野が広がったと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
6	③	島外保育士確保対策事業	3	4	14	3	待機児童の解消を図るため、不足している保育士の確保に向けて、保育施設等の見学や、就職説明会等を開催するとともに、島外から赴任する保育士の引っ越し費用を支援（補助）する。	・島内保育施設等の見学、就職説明会20人 ・島外保育士の渡航費、転居費の支援 県外Q人、県内S人	■待機児童数：6人以下	○	■R5.4.1時点の待機児童数を半数減少させることを目標に設定した。 【待機児童数】 H30.4.1:0人 H31.4.1:0人 R02.4.1:10人 R03.4.1: 2人 R04.4.1: 3人 R05.4.1:12人	—	—	—	【今後のスケジュール】 待機児童解消に必要な保育士を確保する。	【R6成果目標設定の考え方】 ■過去の実績を勘案して設定した。
6	④	親子支援事業	6	4	14	3	就学後に学習・行動等が難しく困難となることが想定される子どもに対して、就学前に専門職によるきめ細かな支援を行うことで、学校・社会生活に適應できるようにする。	一子育て相談・発達相談・発達検査 ・乳幼児健診等の後のフォロー ・親子ひろばの開催 ・様々な機会を通じて療育の支援 ・保育所（園）、幼稚園への巡回相談 ・各種研修会の開催	■親子支援事業の支援により症状等の改善が見られたと回答した対象児の保護者の割合:80%以上	○	■本事業の目的は支援を要する子どもの就学後の学校・社会生活上の困難の改善であるところ、それを指標化することは難しいことから、代替として、対象児を普段から見守る立場である保護者を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が改善が見られたと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 就学後に学校・社会生活が送れるよう親子にきめ細やかな支援をしていく。	【R6成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が改善が見られたと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。
6	⑤	島外幼稚園教諭等確保対策事業	6	7	14	3	就学1年前の子どもを安心・安全に預けられる環境を整え保護者の育児に係る負担感を軽減するため、幼稚園・預かり保育の運営に必要な幼稚園教諭・ヘルパー、預かり保育指導員・ヘルパーを島外から誘致するほか、預かり保育を実施する。	・島外幼稚園教諭・ヘルパー、預かり保育指導員・預かり保育ヘルパーの渡航費・転居費の支援 1人 ・預かり保育の実施	■幼稚園教育に満足していると回答した保護者の割合：80%以上 ■安心・安全に子どもを預け、育児の負担感が軽減されたと感じたと回答した保護者の割合：80%以上	○	■保護者を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が幼稚園教諭に満足していると考えられる数値として80%以上を設定。 ■保護者を対象にアンケートを実施し事業の効果やあり方を検証する。指標については、対象者のうち大多数が育児の負担が軽減されたと感じたと考えられる数値として80%以上を設定。	—	—	—	【今後のスケジュール】 幼稚園・預かり保育の実施に必要な島外幼稚園教諭・ヘルパー、預かり保育指導員・預かり保育ヘルパーを確保する。	【R6成果目標設定の考え方】 ■対象者のうち大多数が満足していると考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。 ■対象者のうち大多数が負担感が軽減されていると考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。